

令和3年度各部会の取り組みについて

- 高齢者部会
- 子育て部会
- CSW部会
- SC部会
- 災害対策部会

高齢者部会

区民ひろばへのアウトリーチ（介護予防・フレイル対策）

◆課題◆

- ・フレイル測定機器の継続的な活用の促進
- ・まちの相談室・高齢者総合相談センターによる出張相談の認知度・参加者数の向上
- ・各関連機関（CSW等）との連携

令和3年度 実績

- ◆①まちの相談室（専門職巡回）
 - ②アウトリーチ（出前講座）
 - ③フレイルチェック
 - ④ヒアリングフレイルチェック
- ・実施回数 ①月1回（年度末見込 215回）
 - ②計 83回
 - ③かんたん 10回、しっかり 7回
 - ④計 42回
- ・実施効果 フレイル対策・介護予防知識の周知

- ◆フレイル対策機器設置
 - ・実施場所 区民ひろば11箇所
 - ・フレイル測定機器活用講座の開催
 - ・実施効果 介護予防活動の啓発・個別指導

- ◆出張相談（高齢者総合相談センター）
 - ・実施場所 全区民ひろば
 - ・実施回数 計 317 回(R3.4~R4.1)
 - ・実施効果 気になる高齢者への見守り強化
包括の役割の周知・普及啓発

- ◆感染症対策
 - ・参加定員の引き下げ（令和2年度より20名から12名へ）
 - ・実施時間の短縮 ・ソーシャルディスタンスの確保
 - ・使用物品の消毒、飛沫防止パーテーションの活用
- ◆課題
 - ・活動自粛によるコロナフレイルの進行（フレイル該当者はコロナ禍前後で1.6倍となり、筋肉量の減少等身体の影響が出てきている。）
 - ・希望者が人数制限により参加できないことがある。
 - ・接触・発声を伴う講座内容の見直し要
- ◆コロナ禍だからこそ取り組んだこと
 - ・活動自粛や聞こえの低下による交流低下はフレイルや認知症進行の要因となるため、気づきのきっかけとなるヒアリングフレイルを導入した。

Withコロナ

令和3年度
実績



来年度に
向けて

まちの相談室



フレイル対策機器の設置



高齢者部会

区民ひろばへのアウトリーチ（介護予防・フレイル対策）

令和4年度
に向けて

◆事業予定・新たなアイデア等

- ・月1回全区民ひろばへの専門職巡回（まちの相談室）を継続
- ・ヒアリングフレイルチェックの年間計画を作成し、まちの相談室との同時開催を調整
- ・アウトリーチ（出前講座）にモバイル講座を新規追加、高齢者のICTリテラシーを促進
- ・フレイルチェックの全圏域への拡大（時期・エリア別の偏向を改善）
- ・区政90周年記念 目指せ「としまる体操」10,000回チャレンジ
- ・総合事業通所B（つながるサロン）の拡充及び通所Cの区民ひろばでの新規実施
- ・出張相談（高齢者総合相談センター）の周知活動の継続と来場者の多い事業との同時実施による認知度・参加者数の向上

ヒアリングフレイルチェック



Withコロナ
Afterコロナ

◆令和4年度からの新たな取り組み

- ・座ってとしまる体操の普及啓発
- ・KDBシステム※等を活用したフレイルチェック参加者の経年比較と効果判定・評価の検討

◆事業継続の工夫

- ・フレイル対策機器活用講座をひろばで継続展開（自主測定・継続利用率の向上）

◆長期的（3～5年後）な事業実施の策定

- ・フレイルチェック（しっかり）の全区民ひろばでの年1回実施を目指す
- ・アウトリーチの定期的な内容の見直し

◆Afterコロナ期を見据えた事業実施の検討 等

- ・コロナ感染症拡大状況を鑑み、縮小した定員を増やし参加枠を拡大する。

モバイル講座



※検診、医療、介護のデータを閲覧できる
国保データベースシステム

子育て部会

子育て事業の充実（子ども若者課）

◆課題◆

安全安心な子どもの遊び場と、子育て世代のつながりを確保する。

令和3年度 実績

- 出張プレーパーク
実施場所：区立保育園、スキップ等
実施回数：8回（区民ひろばは未実施）
実施結果・効果：コロナ禍により感染対策を徹底し、参加者を限定できる施設で実施。
- 「フードサポートプロジェクト」の会場として9カ所の区民ひろばと本庁舎車止めを提供。合計3,939世帯へ配布。（豊島区後援事業）

Withコロナ

- 参加者を限定できる施設で、感染対策を十分行いながら実施した。コロナ前は様々な方が利用する公園などの施設を会場として実施しており、区民ひろばでも例年2施設程度実施していた。
- NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークの「フードサポートプロジェクト」の会場として区民ひろば、本庁舎車止めを提供し、子育て世代のつながり確保に協力した。フードサポートプロジェクトは地域の民生委員・児童委員やCSWなどの支援者とのつながりの場ともなっている。（豊島区後援事業）

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

子育て事業の充実（子ども若者課）

令和4年度 に向けて

- 令和2年度、3年度は区民の安全確保のため利用者が限定されている施設で実施してきた。
- 区民ひろばで年間2施設実施予定。令和元年度に中止となった区民ひろば高南第二を優先とする。
- 「フードサポートプロジェクト」の会場として9カ所の区民ひろばと本庁舎車止めを提供し子育て世代のつながりを確保する。
（豊島区後援事業）



Withコロナ Afterコロナ

- 様々な方が利用する公園などの施設では感染症対策が十分に出来ないため当事業は実施していない。参加者を限定できる施設については感染症対策を十分行いながら実施。
- アフターコロナでは子どもの遊び場や地域の親子交流の機会確保を図るため、積極的に出張プレーパークを実施。
- フードサポートプロジェクトは地域の民生委員・児童委員やCSWなどの支援者とのつながりの場ともなっている。



子育て部会

子育て事業の充実（子ども若者課）

◆課題◆
「地域の子育て力」を向上させる。

令和3年度 実績

- 子ども研修公開講座
- 実施場所：区内研修会場
- 実施回数：3回（子ども研修数は全35回）
- 実施結果・効果：コロナ禍により人数を制限して実施。対象となる職員に加え、地域の子育て支援に関心のある延10名の区民の方が受講した。

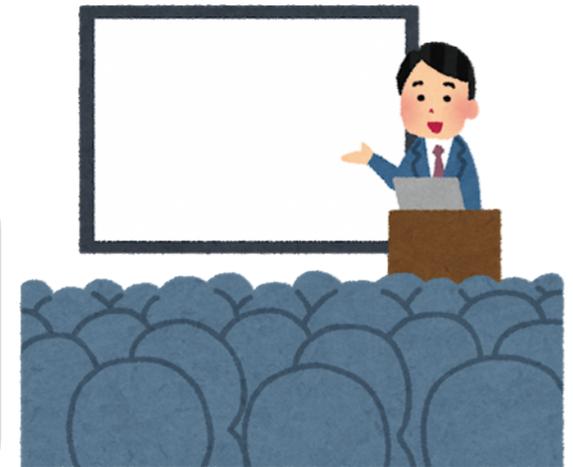
Withコロナ

- ソーシャルディスタンス確保のため、会場規模に応じて人数を制限し、換気・消毒等の感染症対策を行いながら実施した。職員向け研修を活用しているため、職員も人数制限をしている現状の中で区民の参加人数を増やすことは難しい。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

子育て事業の充実（子ども若者課）

令和4年度 に向けて

- 引き続き、子ども研修のうちの一部を、地域の子育て支援に関心のある区民の方に向けた公開講座とし、HPや広報としま等で周知を図る。
- 実施予定回数：3回

Withコロナ Afterコロナ

- 子ども研修は可能な限りの感染予防対策（マスク着用、検温、手指消毒、座席指定、換気の徹底、研修前後の机・椅子の消毒など）を行い実施する予定であり、公開講座も同様に実施予定。

「子ども研修公開講座」受講者募集

子どもが好きで、地域の子育てを見守り、サポートして下さる皆様に、より子ども達を知っていただくための講座です。
子どもや子育て支援に興味のある方のご参加をお待ちします。



子育て部会

子育て事業の充実（子ども若者課）

◆課題◆

中高生の世代間交流及び地域参加を促進する。

令和3年度 実績

- ジャンプ東池袋：「出張よしもとSDGs劇場」。区民ひろば事業をジャンプホールで実施。中高生が参加。ホールは日頃より区民ひろば朋有を利用する乳幼児親子・小学生と中高生との交流が日常的に行われている。
- ジャンプ長崎：「Z I N Eワークショップ」。公園緑地課主宰のパークマルシェと連携し、ジャンプ前公園にて乳幼児親子と中高生が参加しリソグラフを用いたイラスト作品を制作。地域住民へのジャンプ認知にもつながる。

Withコロナ

- 感染症対策から、施設前の公園を活用したイベントを実施したところ、近隣住民へのジャンプ活動の周知にもつながり、新たな活動につながった。
- 従来は区民ひろば等の地域イベントにステージ参加などで積極的に交流していたが、感染症対策による縮小や中止などで地域での活動への参加が難しかった。活動できる場所の確保が課題となっている。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

子育て事業の充実（子ども若者課）

令和4年度 に向けて

- ジャンプ東池袋：区民ひろばやフレイルと連携する事で、中高生と乳幼児親子、中高生と高齢者との世代間交流を図る。
- ジャンプ長崎：引き続きアートを介した地域との連携イベントを公園を活用し展開する。
- 共通：ひろばまつりなどでのボランティア活動を推進し、将来の地域活動の担い手を育成する。

Withコロナ Afterコロナ

- 地域のイベントが縮小された場合、オンラインや映像による交流も含めて検討する。
- Afterコロナ期においては中高生が企画したイベントに地域を招待するなど交流の機会確保を図る。また、地域活動に関心のある民間企業や各種団体と中高生・地域の方をつなぐ活動展開を検討する。



子育て部会

子育て事業の充実（子育て支援課）

◆課題◆子ども家庭支援センターのアウトリーチ事業（育児相談、発達相談）の効果的な実施

令和3年度 実績

- 「お出かけ相談」（育児相談）：18か所で実施
- 実施回数：25回、参加者数：66名
- 前年度からの課題であった午後の事業開催も実施。
- 「あそんで相談ことばとからだ」（発達相談）：18か所で実施
- 実施回数：23回、参加者数：70名

Withコロナ

- 緊急事態宣言による休館等により、お出かけ相談3回、あそんで相談1回が中止。
- 事業実施時には、消毒液を持参し、職員の手指消毒を徹底。靴下やマスクも取り換えて対応。
- あそんで相談は、70人中47人が発達相談が目的の利用だった。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

子育て事業の充実（子育て支援課）

令和4年度
に向けて

- 「お出かけ相談」（育児相談）
- 18か所において35回実施予定。
- 「あそんで相談ことばとからだ」（発達相談）
- 18か所において29回実施予定。

Withコロナ
Afterコロナ

- 引き続き感染対策を徹底しながら、身近な区民ひろばでの子育て相談の拡充を進める。



子育て部会

子育て事業の充実（子育て支援課）

◆課題◆ 区民ひろばとの連携による児童虐待防止の取り組みの推進

令和3年度 実績

- 出張講座（関係機関職員向け児童虐待防止勉強会）の開催
実施回数：2か所（高南第二・仰高）、2回、参加人数10人
- 「オレンジコーナー」での情報発信
年間5回更新。児童虐待防止・里親普及の掲示

Withコロナ

- コロナ禍でのひとり親家庭に対する食糧支援事業「ライス！ナイス！プロジェクト」（NPO法人に実施委託）
- 21か所で12月と2月の2回実施。
- 12月、2月、のべ合計約1,500世帯に配付 ※本庁舎配付分を含む。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

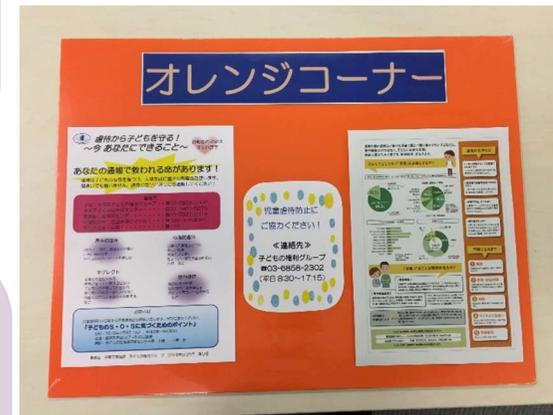
子育て事業の充実（子育て支援課）

令和4年度 に向けて

- 出張講座の開催については引き続き要望のある区民ひろばで積極的に開催する（4回実施予定）
- 「オレンジコーナー」年間6回更新予定
区民ひろば利用者からの声も踏まえ、コーナーの充実を図る。
区民ひろばでのイベントへの参加

Withコロナ Afterコロナ

- 引き続き感染対策を徹底しながら、出張講座等を継続し、地域における児童虐待防止や困難を抱える家庭の見守り強化を図る。
- 虐待防止の取り組み周知



子育て部会

子育て事業の充実（保育課①）

◆課題◆

区民ひろばを利用する保育園の利用実態の把握

令和3年度 実績

- 区民ひろばの日常利用の実態を把握するため、コロナの感染状況や保育園の区民ひろば利用状況等を勘案しながら、可能な状況であれば公立・私立保育園に利用実態の把握（アンケート調査の実施等）を行うことを想定していたが、今年度も通常とは異なる利用状況であり実施を見送った。

Withコロナ

- 感染予防・感染防止対策を講じた上で区民ひろばを利用していたが、利用を控える判断も多く、調査実施には難しい環境下であった。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

子育て事業の充実（保育課①）

令和4年度 に向けて

- コロナの感染状況や保育園の区民ひろば利用状況等を勘案しながら、可能な状況であれば利用実態の把握（アンケート調査の実施等）を行う。



Withコロナ Afterコロナ

- 保育園が貴重な遊び場として区民ひろばを利用している実態を把握・分析することは、区民ひろば、保育園双方にとって有用である。
- コロナ禍での利用時における工夫等も把握するなど、適切な時期に、効果的な内容で実施できるよう引き続き検討する。



子育て部会

子育て事業の充実（保育課②）

◆課題◆

子育て支援の充実に向けた、関係部署および関係機関との連携強化および「在宅子育て世帯」へのアプローチ

令和3年度 実績

- 区民ひろばへの出張講座は4園で実施（講座数9回。看護師講座、保育園タイムなど）。例年実施しているが、感染状況を勘案し実施を見送った園もある。その他、出張育児相談の実施有り。
- 区民ひろば施設における「マイほいくえん」周知チラシの配架

Withコロナ

- 出張講座については、区民ひろばとの連携、調整等により実施した。感染拡大の状況によって見送った園もあったが、実施にあたっては感染防止対策の徹底を図った。
- コロナ禍においてもマイほいくえん事業として保育園と子育て家庭とのつながりは確保されており、区民ひろばでの周知は有用であった。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



子育て部会

子育て事業の充実（保育課②）

令和4年度 に向けて

- 子育て支援における保育園の専門性・人材の有効活用の観点から、区民ひろばと保育園双方が可能な範囲で「出張講座」を実施する。
- 区民ひろばでのマイほいくえん事業のチラシの配架とともに、出張講座時にマイほいくえん事業のPRを行うなど、周知に係る協力体制を強化する。

Withコロナ Afterコロナ

- 「出張講座」については、感染予防、感染防止対策を徹底したうえで実施する。リモート実施については今後の課題といえる。
- 「孤育て」を防ぐなど、コロナ禍におけるマイほいくえん事業の役割を踏まえ、引き続き区民ひろばとの連携、協力を推進する。



子育て部会

子育て事業の充実(放課後対策課)

◆課題◆ 感染症対策を万全に講じ、区民ひろばの協力を得て、学童クラブ・スキップの日・放課後子ども教室・校庭開放を運営し、コロナ禍の中でもより工夫を凝らし児童健全育成に努める。

令和3年度 実績

- 事業名 「学童クラブ」「スキップの日」「放課後子ども教室」「校庭開放」
- 実施場所 各子どもスキップ 22か所(各小学校内)
- 実施回数 「学童クラブ」(293日/年)「スキップの日」(10月以降適宜実施)
「放課後子ども教室」(176回)「校庭開放」(通年/悪天候時は中止)
「第5回子どもスキップまつり」(11月オンライン開催)
- 実施結果 密防止のため、区民ひろばスペースも借用し、コロナ禍の中でも安心安全な小学生の居場所を継続提供することができた。

Withコロナ

- 密防止のため、区民ひろばスペースも借用し、感染症対策の徹底したことにより、通年開所が可能となり、クラスターの発生ゼロ。
- 地域SNS「ピアッツァ」の活用呼びかけや小学生用タブレット端末を活用した取り組みの充実(地域SNS活用 放課後子ども教室動画配信 39本 子どもスキップまつりでの動画による活動紹介 22施設)

令和3年度
実績



来年度に
向けて



スキップ



子育て部会

子育て事業の充実（放課後対策課）

令和4年度 に向けて

- 地域区民ひろば課とも連携し、「第6回子どもスキップまつり」を会場開催（動画＆実演）することでコロナ禍で希薄化している地域一体で子育てする連帯感を取り戻す。
- 感染状況を踏まえ、区民ひろばも借用し、「スキップの日」「放課後子ども教室」の実施回数を充実させ、一般利用児童の需要に応える。
- 複合施設の改修要望を地域区民ひろば課と協議し、一体的に進めていく。

Withコロナ Afterコロナ

- 不審者情報、学級閉鎖情報等を区民ひろばと共有したり、区民ひろば所長の地域子ども懇談会への参加を得て、地域全体で児童健全育成を推進していく。
- 区民ひろばスペースも借用しつつ、感染状況を踏まえ「子どもスキップ一般利用」「放課後子ども教室」の全面再開を目指し、段階的に事業拡大していく。



CSW部会

区民ひろばを活用したCSW事業の充実

◆課題◆

- ・コロナ禍において、生活不安や困りごとを抱えている方々への個別相談支援の充実
- ・区民ひろばの事業を通じて、CSWを知ってもらう機会を増やす
- ・全世代及び対象（世代・地域）に応じた効果的な周知活動の実施

令和3年度 実績

- ・「暮らしの何でも相談会」を23か所の区民ひろばで186回実施。延べ67名の区民から相談を受けることができた。（令和3年5月は中止、令和4年1月末現在）
- ・社会福祉協議会のSNS（twitter、instagramなど）を活用して、相談会の情報や区民ひろばでの活動などを発信。（延べ27回、令和4年2月末現在）

Withコロナ

- ・区民ひろばでCSWが活動を行う際は、基本的な感染対策を徹底。
- ・ワクチンの接種予約が困難な高齢者への支援、自宅療養者向けの食料支援を、区民ひろばを拠点に実施。
- ・コロナ禍において、活動の自粛や中止を余儀なくされていた地域サロン活動者に対して、活動へのモチベーション維持や情報交換等を目的に、「ぷらっとみんなて話す会議」を区民ひろば2か所（富士見台・南大塚）で実施した。コロナ禍でのサロン活動の取り組みなどを話し合い、地域活動団体同士が横でつながるきっかけづくりを行った。（7・11月の延べ4回、参加者数延べ29名）

令和3年度
実績



来年度に
向けて



CSW部会

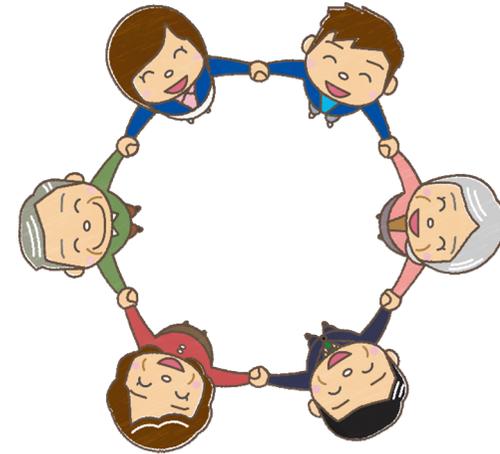
区民ひろばを活用したCSW事業の充実

令和4年度 に向けて

- 令和3年の取り組みに加え以下の2つを強化する
 - ① コロナ禍により生活に不安を抱えていたり、地域で孤立している人々（ひきこもり、外国人、ひとり親など）に、区民ひろばの活動への参加を促すなど、住民同士のつながりづくりを行う。
 - ② 区民ひろばを中心として、地域住民や地域活動者がつながり、地域課題について住民自身が考え、支えあうためのプラットフォームづくりをすすめる。

Withコロナ Afterコロナ

- コロナ禍における課題への対応について、区民ひろば職員とCSWがより密に連携が図れるように、情報共有や意見交換の場を設定する。
- 身体機能等が低下して区民ひろばに来られなくなった高齢者や、移動が困難な障がい者など、誰もがオンラインで参加できる活動や相談会などを実施することにより、区民ひろばを中心とした多様なつながりを創出する。（区民ひろば機能の拡張）



SC部会

区民ひろばでのSP（セーフティプロモーション）の充実

◆課題◆

- ①区民ひろばでのセーフティプロモーション（SP）事業の充実
- ②安全・安心に関する情報提供の強化

令和3年度 実績

- 令和3年度（令和4年2月末時点）のSP関連プログラム
実施回数：2,193回 延べ参加人数：23,200人
- 豊島区公式YouTubeで「みんなで作るセーフコミュニティとしま」
を配信 区民ひろばさくらとSP事業を紹介
- 3度目の国際認証取得に向け、海外審査員による事前指導
を実施

Withコロナ

- 事業の縮小や人数制限、感染対策を行い、対面でのSP関連
プログラムを実施
- 区民ひろばで新たに「高齢者のための転倒予防マニュアル」を配
布

令和3年度
実績



来年度に
向けて

「みんなで作るセーフコミュニティとしま」
の1シーン



SC部会

区民ひろばでのSP（セーフティプロモーション）の充実

令和4年度に 向けて

- セーフコミュニティの3度目の国際認証取得に向け、現地審査を実施（7月末予定）※海外審査員が来日する場合は、区民ひろば1か所の視察を行う予定
- 認証式開催（11月1日予定）
- 取組が少ない分野の講座の増加と新規事業の実施
- SP事業の実施回数が少ない区民ひろばでの増加策の検討と実施
- 安全、安心情報の掲示物の充実
- 各区民ひろばホームページでのセーフコミュニティ活動の周知

Withコロナ Afterコロナ

- 各対策委員会との連携を強化し、感染症対策を講じながらSP関連事業を実施
- SC部会を開催し、区民ひろばでの安全・安心情報や各対策委員会の取組みの情報発信を行う。また、各対策委員と連携しSP事業の充実について検討。

区民ひろば高松の
フレイル測定機器



SC部会

【コロナ禍におけるISS（インターナショナルセーフスクール）の取り組み】

○Withコロナ禍におけるISS活動の工夫・継続

- ・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、対面による地域対策委員会の開催や児童・生徒・教職員及びPTAによる創意工夫ある活動を展開するなど、ISS活動の充実・発展を図る。

令和3年度 実績

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策を「ハイリスク」指標とし、「学校では感染させない」のスローガンの下に取り組んだ。
- ・さくら小学校、千川中学校が初認証、池袋第一小学校、池袋中学校が再認証を取得。さくら小学校の認証においては区民ひろばさくらが地域の主体として積極的に貢献した。
- ・地域対策委員会に各区民ひろば所長が参加するなど区民ひろばと連携した取り組みを継続させることができた。

Withコロナ

- ・校内放送やタブレットPCを活用したオンラインISS集会等の実施。
- ・WEB会議（Zoom）併用によるISS現地審査会の実施。
- ・保健委員会作成の掲示物による手洗い、換気、ソーシャルディスタンスなどの啓発活動 など。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



【合同認証式】

SC部会

【コロナ禍におけるISS（インターナショナルセーフスクール）の取り組み】

令和4年度
に向けて

- 全8中学校ブロックで1校以上のISS国際認証取得
R3に千川中学校ブロックの千川中学校、明豊中学校ブロックのさくら小学校が新規認証を取得したことにより、全8中学校ブロックで1校以上の認証取得を達成。
- 今後は認証校が中心となり、ISSのノウハウを生かした「安全・安心な学校づくり」を全校で充実・推進。
- R4は、区民ひろばと連携し清和小学校、高南小学校が2回目、富士見台小学校が3回目、朋有小学校が4回目の認証取得を目指す。

Withコロナ
Afterコロナ

- 遊びの工夫やきめ細かな学習・生活指導により、けがや新型コロナウイルス感染症の防止に努める。
- コロナ禍でも、ISS活動の継続・充実を図る。
 - ➡放送やポスター等による集会や安全行動等の呼びかけ
 - ➡区内ISS校の児童・生徒ISS委員のオンライン交流
- 地震や火災などの災害に備える活動にも力を入れる。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



【D級ポンプ操作技能の取得】

災害対策部会

区民ひろばにおける災害対策の推進

◆課題◆

- ・救援センターとの連携など、より実践的な補助救援センター開設・運営訓練の実施及び未実施の区民ひろばでの実施に向けた機運醸成
- ・『補助救援センター開設・運営マニュアル』の改訂

令和3年度 実績

- ・区民ひろばを会場とした防災講座を年度内6回実施し、合計91名の参加者に対し、首都直下地震への備えや、コロナ禍での在宅避難の重要性について啓発を行った。
- ・区民ひろば職員や理事、運協役員に救援センター開設・運営訓練（年度内5回実施）に参加してもらい、コロナ禍における運営要領の習得を図り、補助救援センターとの連携を強化した。

Withコロナ

- ・飛沫感染を防止するため、補助救援センターの一人あたりの専有面積を見直し、収容可能人数の再検討を行い、『補助救援センター開設・運営マニュアル』の改訂を行った。

令和3年度
実績



来年度に
向けて



災害対策部会

区民ひろばにおける災害対策の推進

令和4年度 に向けて

- コロナ禍における災害発生時の救援センターと補助救援センターの連携について引き続き検討
- 人員体制の検討
- 備蓄物資の検討（種類・保管場所等）

Withコロナ Afterコロナ

- 感染症対策を踏まえた補助救援センター開設・運営訓練の実施
- コロナ禍により、救援センター内のソーシャルディスタンスを確保すると、収容人数が従来の想定よりも減少するため、補助救援センターを早期に開設することを検討



● 区民ひろば自主運営の進捗について（令和3年度）

（1）令和3年度 自主運営モデル事業実施の経過と検証報告

- ◆ 区民ひろば駒込 （NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込）
- ◆ 区民ひろば南大塚 （NPO法人南大塚おひさまひろば）

（2）今後の自主運営の推進に向けた取組について

(1-1) 区民ひろば駒込 自主運営モデル事業実施

NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込

広がりのあるコミュニティの活性化を高めるためには地域課題を明確にして参加と協働のまちづくりの一旦を担うことが重要であると考え、NPO法人を設立。令和3年4月1日より自主運営スタート。

月日	事項
令和元年6月	定時総会書面開催 で自主運営の方向性で合意
令和2年10月7日	NPO法人設立総会開催
令和2年10月26日	NPO法人認証申請
令和3年1月15日	認証書受理
令和3年1月19日	法人登記 法人設立日: 令和3年1月19日
令和3年4月1日	自主運営モデル事業開始
令和3年6月2日	NPO法人 第1回定時総会開催(書面による開催)
令和3年9月~12月	自主運営移行モデル事業に関する検証実施
令和4年5月15日	オープニングセレモニー開催予定



NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込
設立総会 (令和2年10月7日)

(1-2) 区民ひろば南大塚 自主運営モデル事業実施

NPO法人南大塚おひさまひろば

地域住民の自主的な活動の活性化、地域の情報の拠点として情報の受信・発信、世代間交流などの地域連携・協働を大切に活動を展開。令和3年4月1日より自主運営スタート。

月日	事項
令和元年6月20日	運営協議会役員会で自主運営の方向で合意
令和2年9月26日	NPO法人設立総会開催
令和2年10月14日	NPO法人認証申請
令和3年1月7日	認証書受理
令和3年1月18日	法人登記 法人設立日：令和3年1月18日
令和3年4月1日	自主運営モデル実施開始
令和3年6月5日	NPO法人 第1回定時総会開催（書面による開催）
令和3年10月9日	オープニング記念講演会（地域防災対策）開催
令和3年9月～12月	自主運営移行モデル事業に関する検証実施



NPO法人南大塚おひさまひろば
設立総会（令和2年9月26日）

(2) 区民ひろば自主運営移行モデル事業検証報告

目的：区民ひろば条例に掲げる理念を十分に理解し、適正な運営並びに業務の維持、向上がなされているかについて検証し、確実な自主運営の指針を図る。

実施区民ひろば：区民ひろば駒込、区民ひろば南大塚

検証期間：令和3年9月1日～令和3年12月28日

評価方法：利用者アンケート、NPO法人自己評価、各種実績報告を基に総合評価

①適正な執行管理

事業実施数・利用者数、法令遵守、経費執行状況等5項目

②自主運営の進捗度

住民参加・開かれた運営、利用者への配慮・サービス、多様な主体との協働、事務局体制・組織の能力向上等8項目

(2-1) 区民ひろば駒込 自主運営移行モデル事業検証報告

検証項目一覧	項目別評価
1. 適正な執行・管理	
① 区民ひろば基盤事業の実施と利用人数	A
② 委託経費の執行状況	B
③ 広報	B
④ 法令の遵守	B
⑤ 報告	A
2. 自主運営の進捗度	
① 住民参加・開かれた運営	C
② 利用者への配慮・サービス	A
③ 運営主体が変わったことによる施設運営の変化	B
④ 運営主体が変わったことによる施設運営の満足度	A
⑤ 多様な地域団体との協働	B
⑥ 地域の独自性	B
⑦ 自主運営の認知度	B
⑧ 職員体制・組織の能力向上	B
総合評価	B

検証の結果、総合評価はBとなり、『良好であり、現状のまま本格実施へ移行しても特に問題はない』と判断した。業務委託後の運営面については、NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込の理事長、理事、事務局員らが地域区民ひろば条例に基づく理念を十分に理解し、円滑な事業運営が図られている。また、区民ひろばの業務委託にかかる費用は、運営上の支障をきたすことなく適正な執行、管理が行なわれている。今回の検証の結果をもとに、NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込が自主運営移行モデル事業を通じて課題の整理・検討を行い、駒込小学校地区の「地域のコミュニティ拠点」として、さらなる発展を期待したい。

自主運営本格実施に移行

● 区民ひろば南大塚 自主運営移行モデル事業検証報告

検証項目一覧	項目別評価
1. 適正な執行・管理	
① 区民ひろば基盤事業の実施と利用人数	B
② 委託経費の執行状況	B
③ 広報	B
④ 法令の遵守	B
⑤ 報告	A
2. 自主運営の進捗度	
① 住民参加・開かれた運営	C
② 利用者への配慮・サービス	A
③ 施設運営の変化	A
④ 施設運営の満足度	A
⑤ 多様な地域団体との協働	B
⑥ 地域の独自性	B
⑦ 自主運営の認知度	A
⑧ 職員体制・組織の能力向上	B
総合評価	B

検証の結果、総合評価はBとなり、『良好であり、現状のまま本格実施へ移行しても特に問題はない』と判断した。自主運営化後もNPO法人南大塚おひさまひろばの理事長、理事、事務局員らが地域区民ひろば条例に基づく理念を十分に理解し、円滑な事業運営が図られている。また、区民ひろばの業務委託にかかる費用は、運営上の支障をきたすことなく適正な執行、管理が行なわれている。

今回の検証の結果をもとに、NPO法人南大塚おひさまひろばが自主運営移行モデル事業を通じて課題の整理・検討を行い、巣鴨小学校地区の「地域コミュニティの拠点」として、さらなる発展を期待したい。

自主運営本格実施に移行

● 自主運営推進に向けた取り組みについて

(1) 運営協議会を対象とした自主運営勉強会・意見交換会の開催

- ◆ NPO法人、自主運営に関する学習機会の提供
- ◆ 自主運営を先行実施するNPO法人の施設見学、意見交換
- ◆ 担当職員による情報の提供と継続的な支援
- ◆ 中間支援機能の活用

(2) NPO法人の安定した運営を支援

- ◆ 社労士、会計士、税理士等専門士による相談体制の構築
 - ◆ SNSを活用した情報発信の機会の提供(令和3年度～)
 - ◆ NPO法人相互の交流、情報交換の場の提供
 - ◆ 区との意見交換の場の設定
 - ◆ 担当職員による情報の提供と継続的な支援
-

● 自主運営の推進に向けた課題と令和4年度の取り組み

(1) NPO法人の主体性ある運営に向けた検討

- ◆ NPO法人の組織体制の維持強化（人材確保、人材育成、人材交流）
- ◆ 区民ひろば施設内での収益事業の実施
- ◆ 事務の集約化による事務負担軽減の可能性
- ◆ 区との連携の充実と支援のあり方
- ◆ 関係団体との効果的な連携

(2) 令和4年度の取り組み

- ◆ NPO法人の運営の状況・課題の調査（各NPO法人のヒアリング）

地域区民ひろば自主運営移行モデル事業に関する検証報告【概要版】 ＜区民ひろば駒込＞

1 検証の目的

令和4年4月からの本格実施にあたり、地域区民ひろば条例に掲げる理念を十分に理解し、適正な運営並びに事業の維持、向上が実現できているかについて、NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込の運営状況を検証し、もって自主運営の推進を図るため実施するものである。

2 検証の対象・期間等

(1)事業名称 地域区民ひろば自主運営移行モデル事業

* 主な業務委託内容	①事業の実施に関すること
	②施設(区民集会室等)の貸出事務に関すること
	③区民ひろばの日常的な管理・運営に関すること

(2)運営主体 NPO法人ソメイヨシノの里ひろば駒込(区民ひろば駒込運営協議会)

(3)施設名称 区民ひろば駒込

(4)検証期間 令和3年9月～令和3年12月

(5)自主運営移行モデル事業実施期間 令和3年4月～令和4年3月

3 検証の主体及び評価方法等

利用者、NPO法人、地域区民ひろば課の3主体、3方向から行なう。

利用者アンケート、NPO法人の自己評価、各種実績報告書を基に、他NPO法人の検証結果もふまえ、地域区民ひろば課が客観的、総合的な評価を行なう。評価結果は推進本部会議で報告し、令和4年4月からの本格実施を決定する。

評価方法	アンケート・自己評価期間	対象者	配付数	回収数(%)
利用者アンケート	R3.10.1～10.14(14日間)	アンケート期間中来館者	100	97(97%)
NPO法人自己評価表	R3.10.1～10.14(14日間)	法人理事・事務局	25	25(100%)

●地域区民ひろば課による評価:令和4年2月24日(木)

●評価者:地域区民ひろば課自主運営支援グループ

4 検証項目・総合評価基準

(1)検証項目は、業務委託に関する執行が適正に処理されているかをみる「1. 適正な執行・管理」と自主運営度をみる「2. 自主運営の進捗度」の大きく二つに分け、それぞれ小項目を設定し行う。

(2)総合評価基準を評価表1のとおり設定する。各項目別に評価し、それらを参考にして最終的な総合評価を行なう。

(3)地域区民ひろば課による総合評価は、自主運営前とほぼ同じ状況(現状維持)であれば、良好(基準 C)とする。

評価表 1

基準	評価内容
A	大変良好であり、現状のまま本格実施へ移行できる。
B	良好であり、現状のまま本格実施へ移行しても特に問題はない。
C	概ね良好であるが、一部改善・見直しの上、本格実施に移行できる。
D	改善・見直しが相当必要であり、区のサポートの強化を図りモデル事業を継続する。
E	モデル事業実施の継続の見直しを検討する。

5 検証から導き出された自主運営移行モデル事業実施の総合評価

検 証 項 目		項目別評価
1. 適正な執行・管理		
①	区民ひろば基盤事業の実施と利用人数	A
②	委託経費の執行状況	B
③	広報	B
④	法律の遵守	B
⑤	報告	A
2. 自主運営の進捗度		
①	住民参加・開かれた運営	C
②	利用者への配慮・サービス	A
③	運営主体が変わったことによる施設運営の変化	B
④	運営主体が変わったことによる施設運営の満足度	A
⑤	多様な地域団体との協働	B
⑥	地域の独自性	B
⑦	自主運営の認知度	B
⑧	事務局体制・組織の能力向上	B
総合評価		B

(1) 自主運営の効果

- ①地域の課題とニーズをとらえた事業の実施、運営の工夫により、これまで以上に地域の身近な活動拠点としての役割を果たしている。
- ②NPO 法人の特性と地域の資源を活かした事業展開がなされている。コロナ禍においても感染症対策を講じながら、地域のニーズにあった事業を積極的に実施し、利用者の増加につなげた。

(2) 今後の課題・方針

- ① 豊島区は、自治の推進に関する基本条例を制定し、公と民とが積極的に連携したまちづくりを進めている。また、2020年にはSDGs 未来都市、自治体 SDGs モデル事業にダブル選定され、『としま SDGs 都市宣言』を掲げ、SDGs の実現に向けて地域の多様な主体とのパートナーシップにより、持続可能なまちづくりを推進している。区民ひろばは公民の連携のもと、多様な主体が活動する場として、地域に開かれた運営が期待されている。今後も、駒込地区特有の地域課題やニーズを捉え、地域開かれた施設運営を期待する。
- ② 駒込地区は、地域活動が盛んな地域である。また、区民ひろば駒込は駒込図書館、駒込地域文化創造館、駒込第三保育園との複合建物に位置し、連携できる地域団体や施設に恵まれている。
今後も、多様な地域団体、施設との連携を強化するとともに、地域資源の活用・発掘に努め、NPO 法人ソメイシノの里ひろば駒込の更なる発展を期待する。

6 財政効果

○年間施設維持管理経費（大規模修理費用、清掃・警備委託等保守委託費用を除く）
委託前 28,398 千円 委託後 33,576 千円 財政効果 △5,187 千円

7 まとめ

検証の結果、総合評価はBとなり、『良好であり、現状のまま本格実施へ移行しても特に問題はない』と判断した。業務委託後の運営面については、NPO 法人ソメイシノの里ひろば駒込の理事長、理事、事務局員らが地域区民ひろば条例に基づく理念を十分に理解し、円滑な事業運営が図られている。また、区民ひろばの業務委託にかかる費用は、運営上の支障をきたすことなく適正な執行、管理が行なわれている。

今回の検証の結果をもとに、NPO 法人ソメイシノの里ひろば駒込が自主運営移行モデル事業を通じて課題の整理・検討を行い、駒込小学校地区の「地域のコミュニティ拠点」として、さらなる発展を期待したい。

地域区民ひろば自主運営移行モデル事業に関する検証報告【概要版】 ＜区民ひろば南大塚＞

1 検証の目的

令和4年4月からの本格実施にあたり、地域区民ひろば条例に掲げる理念を十分に理解し、適正な運営並びに事業の維持、向上が実現できているかについて、NPO法人南大塚おひさまひろばの運営状況を検証し、もって自主運営の推進を図るため実施するものである。

2 検証の対象・期間等

(1) 事業名称 地域区民ひろば自主運営移行モデル事業

* 主な業務委託内容	①事業の実施に関すること ②施設（区民集会室等）の貸出事務に関すること ③区民ひろばの日常的な管理・運営に関すること
------------	--

(2) 運営主体 NPO法人南大塚おひさまひろば（区民ひろば南大塚運営協議会）

(3) 施設名称 区民ひろば南大塚

(4) 検証期間 令和3年9月～12月

(5) 自主運営移行モデル事業実施期間 令和3年4月～令和4年3月

3 検証の主体及び評価方法等

利用者、NPO法人、地域区民ひろば課の3主体、3方向から行う。

利用者アンケート、NPO法人の自己評価、各種実績報告書を基に、他NPO法人の検証結果もふまえ、地域区民ひろば課が客観的、総合的な評価を行なう。評価結果は推進本部会議で報告し、令和4年4月からの本格実施を決定する。

評価方法	アンケート・自己評価期間	対象者	配付数	回収数(%)
利用者アンケート	R3. 10. 1～10. 14(14日間)	アンケート期間中来館者	100	100(100%)
NPO法人自己評価表	R3. 10. 1～10. 14(14日間)	法人理事・事務局	31	26(83%)

●地域区民ひろば課による評価： 令和4年2月24日（木）

●評価者：地域区民ひろば課自主運営支援グループ

4 検証項目・総合評価基準

(2) 検証項目は、業務委託に関する執行が適正に処理されているかをみる「1. 適正な執行・管理」と自主運営度をみる「2. 自主運営の進捗度」の大きく二つに分け、それぞれ小項目を設定し行う。

(2) 総合評価基準を評価表1のとおり設定する。各項目別に評価し、それらを参考にして最終的な総合評価を行なう。

(3) 地域区民ひろば課による総合評価は、自主運営前とほぼ同じ状況（現状維持）であれば、良好（基準C）とする。

評価表1

基準	評価内容
A	大変良好であり、現状のまま本格実施へ移行できる。
B	良好であり、現状のまま本格実施へ移行しても特に問題はない。
C	概ね良好であるが、一部改善・見直しの上、本格実施に移行できる。
D	改善・見直しが相当必要であり、区のサポートの強化を図りモデル事業を継続する。
E	モデル事業実施の継続の見直しを検討する。

5 検証から導き出された自主運営移行モデル事業実施の総合評価

検 証 項 目		項目別評価
1. 適正な執行・管理		
①	区民ひろば基盤事業の実施と利用人数	B
②	委託経費の執行状況	B
③	広報	B
④	法律の遵守	B
⑤	報告	A
2. 自主運営の進捗度		
①	住民参加・開かれた運営	C
②	利用者への配慮・サービス	A
③	運営主体が変わったことによる施設運営の変化	A
④	運営主体が変わったことによる施設運営の満足度	A
⑤	多様な地域団体との協働	B
⑥	地域の独自性	B
⑦	自主運営の認知度	A
⑧	事務局体制・組織の能力向上	B
総合評価		B

(1) 自主運営の効果

- ① 地域ニーズに即した広がりのある事業展開が行われている。さらに住民組織で運営することにより、住民自治の観点から住民主体の仕組みづくりが構築され、これまでより特色のある事業運営が行われている。
- ② 運営協議会時代から実施している恒例の事業を大切にしており、直営時代よりもさらに利用者に身近な区民ひろばとなっている
- ③ 利用者アンケートの結果からもスタッフの対応の良さや事業を楽しみにしているなどの声も多く、地域に愛され、地域に身近な存在として存在感を出している。

(2) 今後の課題・方針

- ① 南大塚の地域は、3つのまちづくり協議会と5つの町会が存在し、それぞれが地域活性化のために活発に活動している。豊島区では『としま SDG s 都市宣言』を掲げ、地域の多様な主体とのパートナーシップにより、地域主体で行動し、持続可能なまちづくりを推進していることから、区民ひろばは SDG s の目標の実現において地域を担う重要な拠点である。地域主体の要として、地域ニーズの把握に努め、地域の特色に応じたコミュニティの活性化に寄与する施設運営を期待する。

6 財政効果

○モデル事業実施期間（令和3年4月～12月）

委託前 12,752 千円 委託後 11,192 千円

財政効果 1,599 千円

7 まとめ

検証の結果、総合評価はBとなり、『良好であり、現状のまま本格実施へ移行しても特に問題はない』と判断した。自主運営化後も NPO 法人南大塚おひさまひろばの理事長、理事、事務局員らが地域区民ひろば条例に基づく理念を十分に理解し、円滑な事業運営が図られている。また、区民ひろばの業務委託にかかる費用は、運営上の支障をきたすことなく適正な執行、管理が行なわれている。

今回の検証の結果をもとに、NPO 法人南大塚おひさまひろばが自主運営移行モデル事業を通じて課題の整理・検討を行い、巣鴨小学校地区の「地域コミュニティの拠点」として、さらなる発展を期待したい。

令和3年度 地域区民ひろば推進本部 委員構成

令和3年4月1日

本部長	副区長	齊藤 雅人
副本部長	区民部長	副島 由里
本部員	保健福祉部長	田中 真理子
	子ども家庭部長	澤田 健
幹事	政策経営部 企画課長	山野邊 暢
	政策経営部 セーフコミュニティ推進室長	棚島 匠
	総務部 防災危機管理課長	有村 博和
	区民部 区民活動推進課長	星野 浩昭
	区民部 地域区民ひろば課長	活田 啓文
	文化商工部 学習・スポーツ課長	長澤 義彦
	保健福祉部 福祉総務課長	渡邊 圭介
	保健福祉部 高齢者福祉課長	猪飼 敏夫
	保健福祉部 障害福祉課長	栗原 せい子
	子ども家庭部 子ども若者課長	小澤 さおり
	子ども家庭部 子育て支援課長	山本 りか
	子ども家庭部 保育課長	鈴木 悠斗
	教育委員会事務局 教育部 放課後対策課長	小野 義夫
	教育委員会事務局 教育部 教育施策推進担当課長	坂本 大
豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課長	田中 慎吾	

令和3年度 地域区民ひろば推進本部 部会構成

参考番号 2

	高齢者部会	子育て部会	CSW部会	SC部会	災害対策部会
部会長	高齢者福祉課長	子育て支援課長	福祉総務課長	SC推進室長	防災危機管理課長
副部会長	地域区民ひろば課長	地域区民ひろば課長	地域区民ひろば課長	地域区民ひろば課長	地域区民ひろば課長
部会員		子ども若者課長 保育課長 放課後対策課長	社協 地域相談支援課長	教育推進担当課長	子ども若者課長
	<各課> 高齢者福祉担当係長 高齢者福祉担当係長	<各課> 子ども若者担当係長 東部子ども家庭支援センター所長 西部子ども家庭支援センター所長	<各課> 福祉総務課担当係長 社会福祉協議会チーフ	<各課> SC推進担当係長 指導担当係長	<各課> 地域防災係長 ジャンプ東池袋所長 ジャンプ長崎所長
	<地域区民ひろば課> ○安藤(要) 小原(朝日)	保育課担当係長 放課後対策担当課長	<地域区民ひろば課> ○成島(西巢鴨) 加藤(池袋)	<地域区民ひろば課> ○清宮(仰高) 富山(長崎)	<地域区民ひろば課> ○毛利(朋有)
	城(千早) 永澤(池袋本町) 梶原(南大塚)	<地域区民ひろば課> ○有田(椎名町) 小池(高南第二)	榎本(富士見台) 涌井(西池袋)	鈴木(さくら) 高松(神田)	小久保(豊成) 平野(目白)
		近藤(南池袋) 指田(上池袋)			北本(清和) 後藤(駒込)
事務局	自主運営支援G 池上・荒井	自主運営支援G 清水・荒井	自主運営支援G 澤本・荒井	自主運営支援G 清水・荒井	自主運営支援G 池上・荒井

○区民ひろば部会員の長